

平成 27 年度 亀田東児童館事業実施報告書

1 実施した事業

2 自己評価

3 課題と対応

1 健全な遊びを通じた児童の集団及び個別指導

① つくって遊ぼう！（創作活動室） 第2水・土曜日

(4/8、11、5/13、9、6/10、13、7/8、11、8/5、8、9/9、12、10/14、10、11/11、14
12/9、12、1/6、9、2/3、13、3/9、12)

(自己評価)

今年度も、基本第2水・土曜日に工作行事を行い、水曜日は幼児向け工作、土曜日は小学生向け工作を行う。幼児向け工作では、0～3歳児位までの幼児が参加し、親子で取り組むことが出来る内容で行なった。子どもの発達に親が気付く場面もあり、工作行事を通じて親が子どもの成長の新たな気付きや発見の場となったと感じている。また、作った工作は家でも遊べるものを多く採用したため、家庭でも楽しんでもらったのではないかと思う。小学生向けの工作では、子ども達が興味を持てる内容に努めた。季節にちなんだ工作などを行ない、多くの小学生に参加してもらった。幼児・小学生共に、物作りの楽しさ、完成できた時の達成感や完成度を味わってもらえたと思う。

(課題と対応)

毎月の定例イベントであるが参加者にバラつきがある。単に興味をそそらない内容ということではなく、日にちが合わなかったことや、単に忘れていた事もあった。今年度途中から、ひまわりクラブの参加が無く参加者数は減ったが、内容充実を努め、季節に合ったもの、カレンダーに沿ったものなど子ども達の意見を取り入れて行った。今後も工作の内容や、PR活動のより効率的な方法を工夫していかなければならない。

② 遊戯室で遊ぼう！（遊戯室）

(4/27、5/25、6/22、7/27、8/24、9/28、10/26、11/30、12/14、1/25、2/22、3/28)

(自己評価)

集団遊びをキーワードに、ドッジボール、風船バレー、フリスビードッジ、わらべ歌あそび、ゴムとび、ミニゲームなど様々な遊びを行なった。参加人数は内容によってバラつきはあるものの、異年齢同士が協力したり、高学年が低学年の見本になりルールを守ったりと児童館ならではの様子を随所に見ることが出来た。ひまわりクラブからも多くの参加があり、ひまわりクラブの子ども達と児童館に遊びに来る子どもが交流することも出来た。

(課題と評価)

毎年の課題ではあるが、児童館という施設の特性上、人数予測やチーム編成で難しい点があった。イベントの前日など、忘れてしまわぬよう申し込みをした子に声をかけるなど、多くの子どもに楽しんでもらえるよう配慮すると共に、子どもたちへの周知が課題であると思う。

③ シアター（遊戯室）

(4/3、5/3、6/7、7/20、8/12～14、9/20、10/24、11/8、12/6、1/11、2/7、3/6)

(自己評価)

こどもいけんタイムなどで子ども達から見たい映画やアニメをリサーチしてシアターを行なってきた。子ども達の意見を反映させることができ良かったと思う。また、ドラえもんやヒーローものの短編シリーズなども上映した。最新作品が利用者の集まりも良かった。「シアター」の問い合わせや関心度が高くなった事が実感として感じられた。利用者の意見が良いヒントになったため、来年度はそのあたりを意識しながら行なっていきたい。

(課題と対応)

参加人数が昨年度より全体的に多くなった。ひまわりクラブの子ども達も代休日に参加できるよう、臨時で設けたりと臨機応変に上映を繰り返してきた。親子さん参加が増えている為、今後もリサーチしながら、子ども達の楽しみの1つとなれば良いと考えている。

④ アトリエじどうかん（創作活動室）

(4/6、5/11、6/1、7/6、8/10、9/7、10/5、11/2、12/7、1/11、2/1、3/7)

(自己評価)

昨年に引き続き、ボランティアの方により「アトリエじどうかん」を開催した。子ども達が楽しみながら美術に触れることが出来たと思う。ボランティアの方がとても一生懸命にイベントを行なってくれて、絵や美術に興味のある子どもたちは毎回参加してくれるまでになった。実際、回を重ねる毎に子ども達の絵の塗り方の技法が上達していく事が感じられた。地域の方から協力していただいていることが大変嬉しく、今後も継続して行いたいイベントである。

(課題と対応)

美術に興味がある子ども達が毎年、増えてきたように感じている。今年度はひまわりクラブの移動もありで年度途中から参加者の人数は減ったが来年度は、子ども達の反応を見ながら新たなアトリエ児童館の形をボランティアの方と作りあげていきたい。

⑤ 各種イベント

- ・ 亀田東児童館開館7周年記念祭 (4/25)
- ・ ストラックアウト大会 (5/2)
- ・ ひよこ広場/ミニ運動会 (5/27)
- ・ ドッジボール大会 (6/14)
- ・ ひよこ広場/七夕のつどい (7/1)
- ・ 囲碁大会 (7/25)
- ・ 夏休み工作ランド (8/25)
- ・ ぬりえコンクール (7/24~8/31)
- ・ なつまつり (8/21)
- ・ オセロ大会 (9/12)
- ・ 小、中バドミントン大会 (10/17、18)
- ・ ハロウィンシアター (10/24)
- ・ 音楽会 (11/21)
- ・ ぬりえコンクール(12/23~1/6)
- ・ ひよこ広場/クリスマス会 (12/16)
- ・ お正月お楽しみ会 (1/16)
- ・ ドッジボール大会 (1/30)
- ・ ふゆまつり (2/20)
- ・ ひよこ広場/ひなまつり (3/2)
- ・ 卒業・進級お楽しみ会 (3/25)
- ・ 育児イベント/ベビーヨガ (4/16)
- ・ 育児イベント/ベビーマッサージ (5/14)
- ・ 「梅シロップ」作り (6/30)
- ・ 育児イベント/親子でピラティス (6/18)
- ・ 育児イベント/親子ふれあい体操 (7/16)
- ・ 夏休みお楽しみ会 (7/30)
- ・ 育児イベント/ストラップ作り (8/27)
- ・ 育児イベント/母子分離講座 (9/17)
- ・ ひよこ広場/ハロウィン (10/28)
- ・ 育児イベント/ベビーマッサージ (10/15)
- ・ 育児イベント/ベビードダンス (11/19)
- ・ 小学生クリスマス会 (12/25)
- ・ 育児イベント/ベビーヨガ (12/17)
- ・ ひよこ広場/豆まき (1/27)
- ・ 育児イベント/親子体操 (1/21)
- ・ 育児イベント/太極拳 (2/18)
- ・ 子育て講座 ヨガ教室 (3/17)
- ・ 将棋大会 (3/19)

(自己評価)

毎年恒例となっているイベントに加え地域一体となった音楽会。なつまつりやふゆまつりでは、亀田東小学校区コミュニティ協議会の協力や江南区社会福祉協議会との連携、地域のボランティアの支えもあり盛大に行うことが出来、500名を超える来館者も達成した。地域と共にある児童館を目指し、その目標が毎年すこしずつ色濃く体現されていく喜びを職員一同実感することが出来た1年だった。来年度も地域の子ども、地域の人たちと共にある児童館を目指し運営していきたい。

(課題と対応)

イベントを企画するにあたり、より多くの子ども達から参加してもらいたいという気持ちで内容を考え、日程を調整しているが、予想より参加が少ない行事も事実あった。毎月、毎日、日々職員間で話し合い、子ども達の意見を取り入れながらイベントを行っているが、自由来館ゆえ参加者数となって成果が表れないという悩みが付きまとう時もある。それでも、次はもっと楽しんでもらいたいという気持ちが、職員の次のやる気のモチベーションにも繋がっている。今後も子ども達、地域の方たちのために全力を持って楽しんで頂ける様々な活動を来年度も行っていきたい。

⑥ いどうじどうかん

(6/9、6/22、6/28、7/13、8/2、8/3、8/4、8/6、8/24、8/25、10/25、10/26、12/13、1/24、1/27、2/14)

(自己評価)

今年度は8クラブ9地域、17か所に出向き「いどうじどうかん」を行った。2/14江南区親子ふれあいまつりを含め、1332名の方達と触れ合う事が出来た。昨年よりも依頼件数が増し、活動が増えたことは、江南区全域に児童館の役割を果たす事とPRが出来るため、非常に嬉しく感じている。また、今年度は初めて地域の「子ども会」に出向けたことも今後のいどうじどうかんの幅が広がる要因になると思う。

(課題と対応)

活動が広まっていくにあたり、カプラの数が足りないという事態も起こってきていたので、小学校等に出向くにはカプラの数を増やすことも考えていかなければならないと感じていた。それで年度末にカプラを4400ピース購入し、合計10000ピースで来年度の対応が大丈夫なのではないかと思う。そしてもう2つの課題がある。来年度から始まる「カプラの貸出」と職員のシフトの調整である。児童館外の活動が増えることは職員の負担も増えるということである。いどうじどうかんの依頼は、なるべく断ることのないように対応していきたいが、今後さらに活動が増えた場合、職員の負担を軽くすることも考えていかなければならない。

2 中学生・高校生等の年長児童の自主的な活動に対する支援

(自己評価)

中高生向けイベントを考える際に、どうしても試験、部活動の試合、練習などで来館が遠のく事も考えられる。居場所として児童館を求めている中高生がいるというのも事実なので、来年度以降も継続して中高生が来館しやすい環境、使用しやすい環境を模索しながら整えていきたい。

(課題と対応)

中高生は、体も行動も大きい分、ケガや遊戯室内の故障の原因にもつながる。バスケットボールを使用することが多く、ボールがドアにあたると穴が開いてしまう率が十分あるので、倉庫のドアを強固にする工事を来年度は行っていきたい。もともと児童館遊戯室が本格的なバスケットボールを使用することは想定していない造りであることもあるが、館内の使い方を中高生には良く理解してもらうことが課題であると思う。

3 子ども会等の地域組織活動の育成助長及び指導者の養成

①こどもいけんタイム（創作活動室）

(4/14、5/26、6/23、7/21、8/11、9/22、10/13、11/10、12/8、1/19、2/9、3/9)

(自己評価)

毎月行なっているこどもいけんタイムであるが、参加すると活発に意見を話してくれて有意義な話し合いを行うことが出来た。少しずつではあるが、行事のボランティア活動に参加をしてくれるようになったので、来年度も続けていきたい。

(課題と対応)

こどもいけんタイムが自発的に子どもの意見を聞く場だという事が少しずつではあるが、定着してきた1年だったように思う。来年度は少しずつ本来あるべき形を作りあげていきたい。そのために児童館がみんなのしたい・やりたいが実現できる場所であると認識してもらう必要がある。下半期を目標にこどもクラブ(ボランティアグループ)の設立を目標にしていきたい。

4 子育て家庭の支援

①ひよこ広場(毎週水曜日10時30分～)

(自己評価)

昨年度同様に今年度もたくさんの乳幼児親子が参加してくれた。亀田東児童館の特徴である広い遊戯室を使ってかけっこなど運動面や目で見て楽しい、耳で聞いて楽しい内容に工夫を凝らした。また、就園を間近に控えた保護者の方に好評だったのは知的要素を取り入れた活動であった。そこで自分の子どもの成長を実感したという声も聞かれ、来年度も保護者の声を聴きながら、楽しい取り組みを行っていきたい。

(課題と対応)

参加人数が増えるにあたって、駐車場の問題やトラブル、事故等に一層注意を細やかにしていかなければいけない。亀田東小学校やひまわりクラブなど近隣の施設に協力を頂きながら駐車場の問題に取り組んできた。来年度の状況がどうしても対策が尽きたら、児童福祉係の方と相談していきたい。もう一点は、企画が楽しくても、子ども同士のケガにつながっていくようであれば意味をなさないの、その点も職員間で連携を密にしていかなければいけないのも必須である。(保護者のマナーがいいのがとても有難かった。)

③さくらんぼくらぶ

(自己評価)

対象が0～1歳の親子さん向けの行事なので、「ひよこ広場」よりは参加者が限られてくるが、それなりに常連さんが着実に増えてきたのが強みではあった。ひよここと大きく違うのは、職員とお母さん達の距離を縮めるきっかけになる場である。お茶を飲みながら、子育ての悩みや近況、家庭の悩みまで友達どうしのように話してくれる。情報も共有できる。これからもそういう1人1人を大切にしながら、今後もワーカーズだけでなく、他の子育て支援施設と繋がりを持ち、より良いイベント、より楽しい企画を提供できるようにしていきたい。

(課題と対応)

参加者数は多くないが、大事な語らいの場である事からこういう場を大切にしていきたい。皆さんが話しやすいきっかけや保護者同士の繋がりをつけていける場にしていかなければいけないし、職員のスキルが試される場でもある事を自覚しながら今後も大事な行事のひとつとして行っていきたい。地味な活動ではあるが、ここから「ひよこ」への参加につながり、幼児さん親子の居場所としても繋がっていくよう努力していきたい。

④子育てイベント（毎月1回）

（自己評価）

お母さん達の声やニーズをリサーチしながら毎月行ってきた。年に2回の母子分離イベントには、民間の保育サポーターをお願いしてやった。まずは無事故で終えた事に安堵している。お母さん達と子どもの触れ合いの場になったり、お母さんのリラックスの場になったりと色々な意味で好評の場であった。

（課題と対応）

来年度は、区役所の方からの意見もあり、母子分離イベントを無くす方向で持っていきたい。そして講師だけのイベントよりも職員のスキルアップもかねて、職員劇団のイベントもいいのではと。そして学生にも声をかけ、学生の発表の場となれるような劇、ダンスやペープサート、人形劇などのイベントも組み込んでいきたい。

親子で楽しめる工夫と安全面を考慮しながら楽しい児童館イベントを今後も考えていきたい。

5 その他地域の児童の健全育成に必要な活動

今年度は第11回、第12回の亀田東児童館運営協議会を開催した。亀田東小学校長をはじめ、亀田中学校長、亀田中学校地域教育コーディネーター、亀田東小学校区コミュニティ協議会会長、江南区社会福祉協議会、保護司、指導保育士、児童委員の方々を委員とし、今年度は委員9名で行えた。今年度の協議内容はおおむね例年通りに年間行事予定、移動児童館の報告や利用者推移について議論され忌憚のない意見を出していただいた。そして何よりも、委員の方たちが児童館の必要性を理解していただき、児童館と一緒に広め、盛り上げてくださることが心強かった。来年度も、より良い児童館にして行くために御尽力いただけるよう、児童館運営をさらにより良くしていきたいと思う。

総括・評価

今年度年間利用者数で親子さんの来館者が大幅に増えたことが、私たちにとって何よりの励みとなった。それは、1年間地域の子ども達やその保護者に児童館を利用してもらった中で、私達職員の課題を常に皆で話し合い、視点を同じにして業務をチームで頑張ってきた事が保護者の方に理解や共有をして頂けたと思っている。しかし、だからといって反省点や改善点が無いわけではない。日々の業務やイベントを通じて、その都度反省・改善をし、それを次に活かしていくことがより良い児童館を作る上で大切だと私たち職員が分かっているからである。今年度の成果に驕ることなく、来年度も私たちは日々の業務を大切に、一步一步地域の人たちに必要とされる児童館を作りあげていきたいと思う。